
仲根駅にて

津軽 あまに

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仲根駅にて

【Nコード】

N9924N

【作者名】

津軽 あまに

【あらすじ】

家出少女の思い出。

日常への小さな抵抗と、非日常めいた見間違いの話。

昼下がりの仲根駅前は、相変わらずの閑古鳥。

大した娯楽施設や観光の目玉もない新興住宅街。

地元の小中学校が放課後を迎える頃までは、主婦と老人、そして自分のような暇人が駅前をうろつくのがせいぜいだ。

駅前、五丁目商店街の入り口、今川焼の看板を掲げた小さな店先を覗き込む。

そこには鉄板に油を敷きながら額の汗を拭う、見慣れた顔。

「おばちゃん、お疲れ様です」

「茜ちゃん。久しぶりに実家かい」

ただでさえ大きな口が笑うと顔の半分を占めんばかりになる。人懐っこい顔だった。

つられて私の顔にも笑顔が浮かぶ。

「はい。年末と年度末くらいは、って」

今川焼のつぶあんを一つ買い、バス停留所のベンチでそれを頬張る。

甘くて、暖かくて、柔らかくて。

初めて食べたとき。十年前と、変わらぬはずの味。

あの頃の私は今以上に甘ったれで、今以上に自分が甘ったれだと知らなくて。

だからだろうか。あの時の記憶の中の今川焼は、もっと甘かったはずだった。

その日、私は家出をした。

直接の理由は覚えていない。

親に説教を受けたのか兄弟と喧嘩をしたのか。

まあ、どうだってよかったのだと思う。それは引き金に過ぎなかった。

家を出なければならぬ。

その頃私は日頃からそう思っていたのだ。別段理由のない思いつきではあったが。

あてがあつたわけではない。ただ、友達の所へ転がり込むのも、児童館に向かうのも、違う気がした。

その日は山降ろしの風が厳しくて、着の身着のまま飛び出した私は身を縮ませてひたすら歩いた。

どの道をどれほど歩いたか、今となってはろくに覚えていない。ただ、記憶に残っているのは嫌味つたらしい向かい風と、感覚のなくなった耳たぶ、流れる鼻水くらい。

気がつくと、駅前。五丁目商店街の入口にいた。

家から駅まではバスでも二十分はかかる。まして子供の足だ。何時間歩いたのだろう。

日の落ちたばかりの商店街は、買い物客で賑わっていた。

眩いショーウィンドー。鼻をくすぐる油の匂い。親に手を引かれる子供達は暖かそうだった。

寒さを凌ぎに入ったパン屋。結局、すぐに飛び出した。腹の音を店の人間に聞かれるのが癪だった。

商店街には、顔。顔。顔。大人も、子供も、男も、女も、見知らぬ顔。

駆け出そうとした、そのとき。

「迷子だろ？」

声が、かけられた。白い前掛けをした中年の女性だった。

首を振る。迷子などと一緒にされたことが悔しくて、反論しよう

とした。

それでも体は正直だ。決心とは裏腹の軽薄な音が腹から響く。

「喰いな」

さしだされたのは、今川焼。触れた指が暖かい。

「お金・・・」

「焼冷ましを売る気はないよ。ロハ」

「ロハ」という意味はわからなかったが、勢いに押されて口をつける。

甘くて、暖かくて、柔らかくて。

そのとき。確かに私には見えたのだ。

潤んで歪んだ視界の中。目の前を行き過ぎるバスの電光掲示板に。

「— a k a n e , g o h o m e 〔あかね、かえりなさい〕」と。

弾かれたように、立ち上がる。

「ありがと、おぼちゃん」

手の中の今川焼を口の中に押し込み、駆け出す。そのバスの行き先へ。

結局、そんな形で私の初めての家出未遂は終わりを告げた。

多分、その時はまだ私は「そこ」を突破する速度に達していなかったのだろう。

今だってそうだ。

一人暮らしなどを始めたところで、結局はまだ家を振り切る速度には乗りきれていない。

あの時見たバスの中から、以前の自分が歩いた道を眺める。

ふと視線を移すと、次の停留所を運転席の電光掲示板が告げていた。

「next, —Nakane—go—home 《仲根五丁目》」

我が家までは、あと停留所八つ分。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9924n/>

仲根駅にて

2010年10月9日18時50分発行